

○特に御意見をいただきたい評価（機構と県で評価が異なる項目等）について(第三期中期目標期間)

※ 項目番号とページ数は「令和 6 年度業務実績評価書及び第三期中期目標期間業務実績評価書 参考資料
小項目評価」のもの。

項目 番号 (ページ)	項目内容	機構		県		小項目コメント（案）
		見込み	期間 評価	見込み	期間 評価	
1 (P1)	足柄上病院 【地域ニーズに沿った医療等】	A	D	B	C	第三期中期目標期間を通して目標を達成した項目は令和 5 年度の手術件数のみであったが、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関となり、病床制限など通常と異なる医療提供体制の中、新型コロナウイルス感染症患者を積極的に受け入れるなど対応を行ったことから、総合的に判断し、C 評価とした。
4 (P7)	足柄上病院 【地域包括ケアシステムの推進】	D	D	C	C	「短期在宅加療パスを利用した患者数」については、感染防御の影響があるものの、期間中、目標値を大幅に下回って未達の状況が続いており、状況に改善が見られなかった。 一方で、「地域包括ケア病棟における在宅復帰率」は令和 3 年度から目標値を上回り続けており、また、「急性期病棟における在宅復帰率」についても、第三期中期目標期間を通して、目標を概ね達成し続けている。 これらのことから、総合的に判断し、C 評価とした。
5 (P9)	こども医療センター 【小児専門医療・救急医療等】	A	C	B	C	小児専門総合病院として難易度の高い多くの手術を行ってきたこと、レスパイトケアの受入数が大幅に増加したこと、医療的ケア児の積極的な受入れや在宅生活の支援を進めたことなどが認められる。 令和 3 年 10 月にこども医療センターにおいて発生した医療事故を契機として設置された、「医療安全推進体制に係る外部調査委員会」による「42 の提言」については、令和 5 年度から計画的に取組を実施し、安全な医療提供に努めたが、一方で、質の高い医療の提供の面において、患者目線の取組の推進に改善を期待したいことから、総合的に判断し、C 評価とした。

項目 番号 (ページ)	項目内容	機構		県		小項目コメント（案）
		見込み	期間 評価	見込み	期間 評価	
6 (P13)	こども医療センター 【緩和ケア・相談支援】	A	S	A	A	緩和ケアサポートチームによる定期的なカンファレンスの実施や回診対象病棟の拡大等により、第三期中期目標の期間において順調に取組が進捗し、「緩和ケア実施件数」については令和4年度から、目標値を大幅に上回る達成率が続いた。 一方で、成人移行期医療に係る成人期の医療機関との連携の構築及び医療的ケア児に係る支援・情報センターとの連携体制の構築などの取組を更に推進していく必要があることなどから、A評価とした。
8 (P18)	精神医療センター 【精神科救急医療・災害医療】	A	B	A	A	精神科コロナ重点医療機関として精神疾患の病状が重い新型コロナウイルス感染症患者の入院を受け入れ、また、DPATを派遣し、精神疾患の治療の支援等を行い、災害拠点精神科病院としての役割を果たした。 「救急病棟入院延患者数」については、第三期中期目標期間を通して概ね達成できており、県の精神科救急医療システムの基幹病院としての役割を果たしたことから、中期目標を達成しているものとし、A評価とした。
9 (P20)	精神医療センター 【地域の医療機関との連携】	A	D	A	C	「退院後3か月以内に再入院した患者の割合」については、期間を通して目標未達が続き、状況に改善が見られなかった。 一方で、地域の医療機関や福祉施設との連携・機能分担の強化に加え、訪問看護などを行うことで、患者の地域移行や社会復帰に向けた取組を積極的に進めたため、第三期中期目標期間における「訪問看護件数」は、目標値を大幅に上回る状況が続いた。 これらのことから、総合的に判断し、C評価とした。

項目 番号 (ページ)	項目内容	機構		県		小項目コメント（案）
		見込み	期間 評価	見込み	期間 評価	
11 (P25)	がんセンター 【相談支援等】	A	B	B	A	第三期中期目標期間を通して、「緩和ケア実施件数」、「漢方サポートセンター外来患者数」ともに目標値を上回る状況が続き、必要とされる患者支援に十分に対応できた。 また、リハビリテーション件数については、休業等により実働できる療法士が減少したことにより目標未達となったものの、令和5年度を除き、件数は順調に増加した。 これらのことから、総合的に判断し、A評価とした。
14 (P30)	循環器呼吸器病センター 【循環器・呼吸器専門医療】	D	D	C	C	心臓血管外科医の不在や、放射線治療装置の更新に伴う影響などにより、第三期中期目標期間において、「外来化学療法実施件数」を除いた複数の項目で目標未達となる状況が続いた。 一方で、心臓血管外科医師を招聘し、令和6年から開心術を再開するなど、循環器・呼吸器病の専門病院として、高度・専門医療の提供に努めた。 また、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関となり、病床制限など通常と異なる医療提供体制の中、新型コロナウイルス感染症患者を積極的に受け入れるなど対応を行ったことや、間質性肺炎の症例数は、10年連続で全国1位となったことなどから、総合的に判断し、C評価とした。
23 (P45)	地域の医療機関等との機能分化・連携強化	A	C	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響下でも、地域医療機関との機能分化・連携強化に取り組んだ。また、5類移行後においても、各病院で地域の医療機関との連携のもと、通常医療の早期回復に努めることで、複数の病院で患者の紹介・逆紹介件数が増加し、コロナ禍を上回る件数となった。 こうしたことから、総合的に判断し、A評価とした。

項目 番号 (ページ)	項目内容	機構		県		小項目コメント (案)
		見込み	期間 評価	見込み	期間 評価	
24 (P51)	臨床研究の推進	S	S	A	B	「治験受託件数」の全体数は、第三期中期目標の期間を通して、目標値を大幅に上回ったが、各病院別にみると、複数の病院において、目標値を大幅に下回る状況が続いたことから、総合的に判断し、B評価とした。
26 (P57)	医療安全対策の推進	C	B	C	C	第三期中期目標期間においては、期間を通して概ね目標値を達成しており、医師の報告割合についても、目標値を大幅に上回った病院もあった。 また、令和3年10月にこども医療センターにおいて発生した医療事故を契機として設置された、「医療安全推進体制に係る外部調査委員会」による「42の提言」を受け、各種会議などを通じて、ヒヤリ・ハット事例及びアクシデント報告を組織横断的に情報共有し、再発防止策の確認や検討を進め、また、各病院においても医療安全会議や研修等を通じて医療安全の教育を行うなどの取組を推進し、職員の医療安全への意識の浸透が進んだ。 その一方で、インフォームド・コンセントなど患者目線の取組や、診療の質評価の体制の整備などについては進捗に課題が残り、今後改善を期待したいことから、総合的に判断し、C評価とした。
28 (P63)	患者や家族、地域から信頼される医療の提供 【患者支援等】	A	S	A	A	各病院にメディエーターを配置するとともに、定期的に医療従事者等を対象とした医療メディエーター研修会を開催した。 また、業務効率化と質の高い患者支援の実施を目的として、入退院支援業務へP F Mの導入の検討を行った。 第三期中期目標期間を通して、実績値は上昇を続け、目標を大幅に上回った項目も複数認められる一方で、足柄上病院の「入退院支援実施件数」については、令和3年度を除き、目標未達の状況が続いたことから、総合的に判断し、A評価とした。

項目 番号 (ページ)	項目内容	機構		県		小項目コメント（案）
		見込み	期間 評価	見込み	期間 評価	
34 (P79)	適正な業務の確保	C	B	C	C	令和3年10月にこども医療センターにおいて発生した医療事故を契機として設置された、「医療安全推進体制に係る外部調査委員会」による「42の提言」を受け、機構全体で、医療安全に係る基盤体制整備、弁護士との相談体制の構築、重大事故発生時の対応・共有・公表体制の強化などを図った。 一方で、期間を通して、継続して課題が残ったこと、令和6年度においては、診療のクオリティを統率、管理する部門の設置について、設置にいたらなかった病院があるなど、事故を未然に防ぐために必要な組織体制の構築について今後改善を期待したいことから、総合的に判断し、C評価とした。
37 (P88)	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	D	B	D	D	令和4年度までは、コロナ関連補助金などの影響により経常収支は黒字となっていたが、令和5年度に補助金が大幅に減額されたため、令和6年度には、総損失が40億6,200万円となり、財務内容の改善に大きな課題が残った。 第三期中期目標期間を通して、「資金収支」を除き、目標値を概ね達成したが、今後の経営を見据え、抜本的な改善に取り組む必要があることから、総合的に判断し、D評価とした。